

# 原油市場展望

2022年9月

 株式会社 **日本総合研究所**

調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2022年9月5日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎 (Tel:080-4176-4439 Mail:matsuda.kentaro@jri.co.jp)

◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます(右側QRコードからもアクセスできます)。新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。

<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

<メルマガ> <Twitter>

経済・政策情報メールマガジン



経済・政策情報メールマガジン

日本総研調査部Twitter 日本



日本総研調査部Twitter 日本

# 原油価格見通し：高値圏で振れの大きい展開

## ◆現状：振れを伴いつつ80ドル台後半へ

8月のWTI原油先物価格は、①中国経済指標の下振れ、②イラン核合意再建協議の進展観測、③OPECによる需要見通しの下方修正などから、月半ばにかけて、ロシアのウクライナ侵攻前の水準（80ドル台半ば）近くまで下落。

その後、米原油在庫が大幅に減少したほか、サウジアラビアが減産を示唆したことなどから一時90ドル台後半へ上昇。月末にかけては、各国中央銀行が金融引き締めペースを加速させるとの見方が強まり、再び90ドル割れ。

## ◆投機筋の買い越し幅は横ばい

投機筋の原油先物の買い越し幅は、横ばい圏の動き。需要・供給双方の不透明感が根強いため、総建玉は減少傾向が持続。

## ◆見通し：高値圏でボラタイルな展開

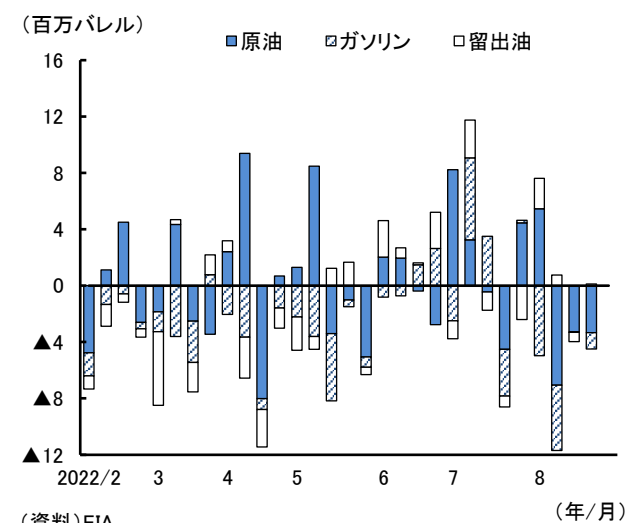
先行きを展望すると、原油価格は高値圏で上下に振れやすい展開が続く見込み。主要中央銀行による金融引き締めにより世界的に景気が減速するとの懸念が強く、原油需要の減少が意識されやすい状況。ただし、①主要産油国の増産ペースは緩やかにとどまること、②ロシア産原油の供給を巡る不透明感が根強いこと、などから供給面の不安も残存。価格上昇・下落双方の思惑が交錯しやすい地合いが続く見込み。

原油価格と株価・為替レート



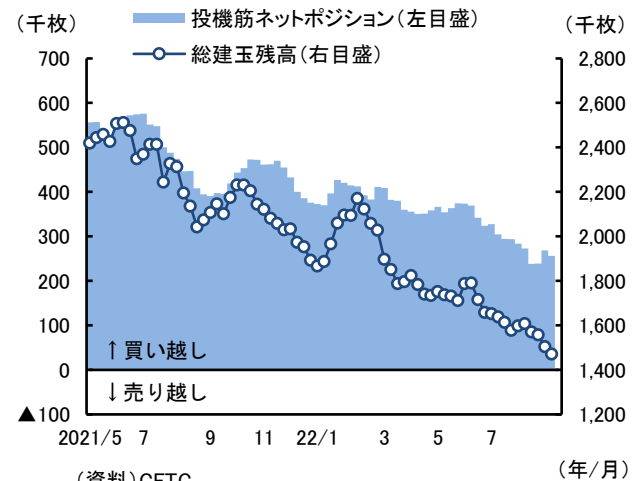
(資料) Bloomberg L.P., FRB

米国の原油・石油製品在庫(前週差)



(資料) EIA

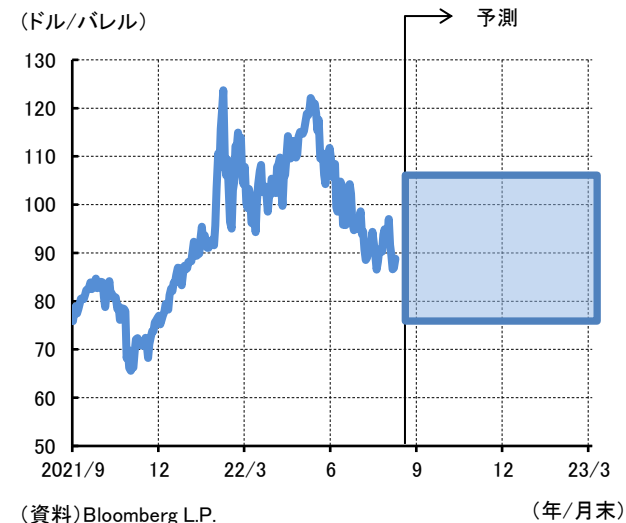
WTI原油先物ポジション



(資料) CFTC

(注) 建玉単位の1枚は1,000バレル。

WTI原油先物価格見通し



(資料) Bloomberg L.P.

# トピック：原油市場を左右する米国の動向

## ◆米原油生産は力強さを欠く見込み

米国の原油生産は、緩やかな回復が持続。主要地区のシェールオイル生産では、生産コストが相対的に低いとされるパーミヤン地区がけん引。シェール企業は、実質的な在庫とみなされるDUC（掘削済みだが仕上げを行っていない坑井）に仕上げ工程を施し、コストを抑えて生産を拡大。

もっとも、原油価格の上昇を抑制するほどの生産拡大には時間を要する見込み。パーミヤンの生産は既に過去最高水準に達しており、DUCはピーク時の3割程度まで減少。生産の先行指標である石油リグ稼働数の増加にも一服感がみられており、増産ペースの加速は見込み薄。

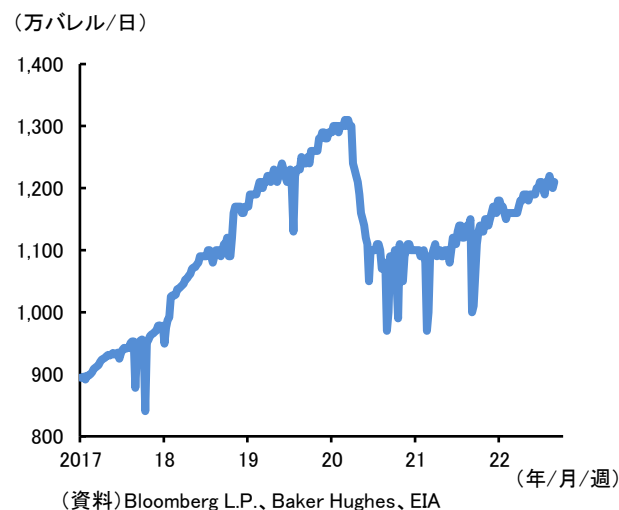
## ◆米国の政策が原油市場を左右

米国と関連する以下2点が、原油価格の振れ幅を強める要因に。

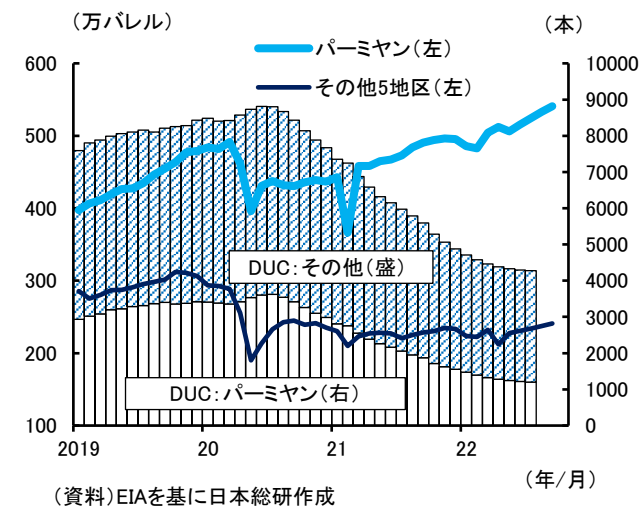
第1に、大規模な戦略備蓄放出の終了。日量100万バレル超の備蓄放出は10月までの一方、秋以降には放出分の買戻しを予定。戦略備蓄がコロナ禍前の水準に戻るには2億バレル強の購入が必要。今後、買戻しを巡る思惑が原油価格の上昇圧力となる公算。

第2に、イランの核合意再建協議。米国の核合意への復帰はイラン産原油の市場への流入を促すとみられるものの、供給超過を懸念するサウジアラビアなどが減産姿勢に転じるなど、価格抑制を期待できない状況。むしろ、市場の不透明感を増大させる可能性も。

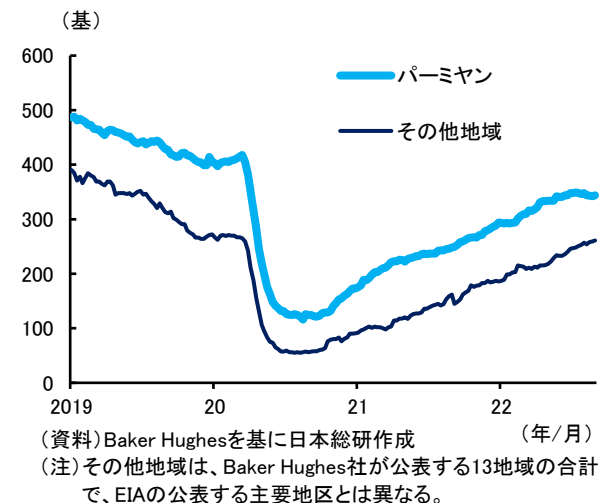
## 米国の原油生産量



## 米国の主要地区のシェールオイル生産とDUC



## 米国の石油掘削設備(リグ)稼働数



## 米国の石油戦略備蓄

